



親戚の親戚は“遠い親戚”です。地域や国際都市のつながりをぜひ共有しましょう。

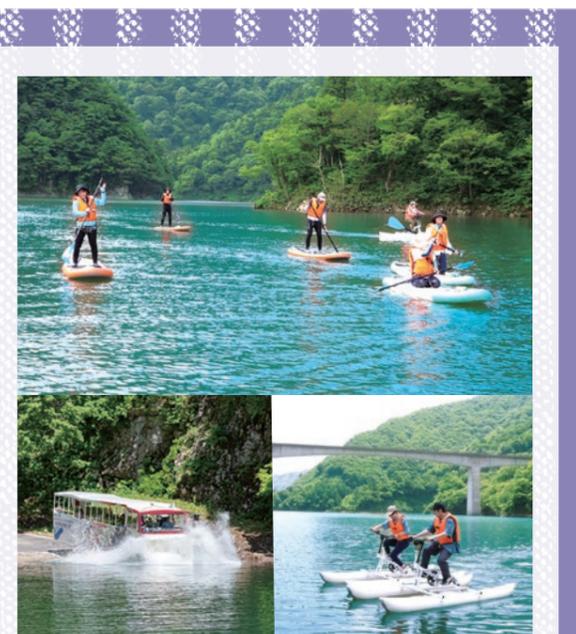
めて、まちの魅せ方や仕掛け方をぜひ学ばせていただきたいですね。新型コロナが収束し、これからインバウンド需要も回復してくるでしょうから、「海外からの観光誘客」も視野に入れていきたいところです。長井紬・結城紬両方の着心地体験をしながら、自然や歴史などお互いの強みをパッケージにした「超広域」の観光ツアーができれば面白いと考えています。

内谷市長 広い世界から見たら、両市の距離など“ご近所”みたいなものではないでしょうか。海外といえば昨年、長井市が国際交流をしているドイツのバートゼッキンゲンという都市で、「国際ユース・キャンプ」という青少年が1週間寝食をともにしながら自然体験をするプログラムがありました。長井市からも中高生を派遣して、イタリアやフランスなど4カ国約50人の若者と交流を深めまして、子どもたちの人生観が変わるような素晴らしい経験になったようです。「親戚の親戚は遠い親戚」ですから、こういった交流都市も含めて両市のつながりを共有していけたらいいですね。

両市民が「幸せ」になるよう

内谷市長 昨年6月に長井市で開いた姉妹都市盟約40周年記念式典の中で、「両市の発展と両市民の幸せの実現」という目標を掲げた共同宣言を交わしました。40年前の先人の想いや願いを未来につなげられるよう、締結当時に行われていた「青少年交流」なども復活させましょう。

小林市長 昨年は、両市のパークゴルフ協会が主催した記念大会が、それぞれの市で開かれたりもしました。つながりの原点でもある「市民交流」の活性化は、私も大賛成ですね。これも一つのめぐり合わせですが、今年は両市ともに「市制施行70周年」を迎える年なんですね。例えばスポーツ大会など既存のイベントに「姉妹都市杯」を設けてお互いに参加するなど、交流の機会を作れると良いですね。また、長井市では早くから「自然を生かした観光誘客」に取り組まれていますので、観光分野での連携を深



ウォーターアクティビティの宝庫

水資源が豊かな長井市。長井ダム「ながい百秋湖」では、水上自転車、滝ぐりも楽しめるSUPやシャワークライミング、山形県初となる水陸両用バスなど、さまざまなウォーターアクティビティが楽しめる。



国際姉妹都市から広がる交流の輪

長井市の国際姉妹都市、ドイツ・バートゼッキンゲン市で昨夏開催された「国際ユース・キャンプ」の様子。長井市の中高生たちは、ドイツ・イタリア・フランスの若者たちと言葉や文化の違いを感じながらも、お互いを認め合い交流を深めた。

「けん玉」や「桐下駄」のような関係へ

小林市長 両市ならではの農産物や特産品もありますから、物産品が買えたり地域情報や観光情報などもわかる「アンテナショップ」のようなものがあつたら、両市民がもっと身近に感じられるでしょうね。あと、長井市は「けん玉のまち」ですよ。今回、両市の市章が記された特製のけん玉を40周年の記念品としてお贈りいただきました。

内谷市長 長井市は「競技用けん玉」の生産量が日本一で、全国の生産量の7割を占める、



市民が長井や結城で“思い出”を作ることが両市の未来につながります。

知る人ぞ知る「けん玉のふるさと」なんです。けん玉世界チャンピオンのアメリカ人に地域おこし協力隊になっていただき、けん玉文化を国内外に発信しています。皆さんご承知のように、けん玉は正しい姿勢でけんを構え、平常心を保ちつつ呼吸を合わせてけん先やお皿に玉を乗せる遊びです。まさに「両市民や行政が自然体で交流し、いざというときに協力できるような関係」が今後も続くことを願って、この度の40周年の記念品として贈らせていただきました。

小林市長 結城市から贈らせていただいた桐下駄も、まさに同じ想いです。結城の特産品である桐下駄に、ウッドバーニングという焼いて模様を出す手法で、長井市の市花・アヤメと結城市の市花・ユリを装飾したのですが、下駄は左右そろって初めて履物として機能しますので、これまでの40年を振り返りつつ、これからも歩調を合わせともに歩んで行きたいという願いを込めさせていただきました。今日まで続いてきた40年間の交流は、本当にかげがえのない財産です。これからも、「両市の発展と両市民の幸せの実現」に向けて、協力し合ってまいりましょう。



姉妹都市盟約40周年の記念品として、長井市からは両市章が記された「けん玉」が、結城市からは両市花を装飾した「桐下駄」が贈られた

